

夏目漱石

「坊っちゃん」第一章

読む前に

1. 「坊っちゃん」という題から考えて、この小説の内容を想像してみましょう。
「坊ちゃん」という言葉は、誰が誰を呼ぶ時に使うのでしょうか。
2. 夏目漱石という作家について、どんなことを知っていますか。
「坊っちゃん」の他にどんな小説が有名ですか。
3. この作品は、明治時代に書かれましたが、明治時代は、何年から何年までですか。
明治時代の前と後の時代は、何時代ですか。
また、明治の時代についてどんなことを知っていますか。
4. 明治政府は、日本の近代化のために西洋文化を取り入れようとして、エリートを外国に留学させました。夏目漱石もその一人でしたが、彼はどこの国に、どんな目的で留学しましたか。
帰国後、漱石は、どんな仕事につきましたか。インターネットで調べてみましょう。
5. 「坊っちゃん」の第一章は、家族について書かれています。明治時代と現代では、家族関係や価値観がどのように違うと思いますか。
6. 「坊っちゃん」は学校を卒業してから教師になりますが、教師になる人はどんな性格の人が望ましいと思いますか。

夏目漱石についてもっと知りたい人に

1. 夏目漱石にとって、留学はどんな経験だったのでしょうか。
留学経験が作品にどんな影響を与えているのでしょうか。
2. 夏目漱石が作家になった理由は何だったのでしょうか。
3. 夏目漱石の小説は、日本の国語の教科書によく使われていますが、その理由は何でしょうか。
4. 夏目漱石が新聞小説を書くことを頼まれた時、どんな小説を書くことを期待されていたのでしょうか。
5. 夏目漱石が書く後期の小説は、近代人の自我やエゴイズムがテーマになっていますが、このテーマは、近代小説独特のテーマですか。
6. 「坊っちゃん」という小説は、他の小説と比べると、文体がかなり違います。
漱石が「坊っちゃん」のような歯切れの良い短文を書けたのは、どうしてでしょうか。

明治時代についてもっと知りたい人に

1. 明治時代には、日清戦争と日露戦争がありました。これらの戦争は、社会や経済にどんな影響を与えたのでしょうか。
2. 明治時代の男性は「立身出世」を目指していましたが、「立身出世」というのは、どういう意味ですか。そして、なぜこの時代に「立身出世」が男性の大きな目標だったのでしょうか。
3. 明治時代の女性は「良妻賢母」が理想だとされていましたが、「良妻賢母」というのは、どういう人ですか。そして、なぜこの時代に「良妻賢母」が理想とされたのでしょうか。
4. 明治23年に政府は、学校教育のために「教育勅語」を発布しました。

この「教育勅語」の内容について調べてみましょう。

政府は「教育勅語」を通して日本国民をどのように教育しようとしたのでしょうか。

5. 明治時代には、家族の制度として「家父長制」が強められました。

この明治時代の「家父長制」について調べてみましょう。

あなたの国の現在の家族制度とどのように異なっていますか。

夏目漱石「坊っちゃん」あらすじ

「江戸っ子」の坊っちゃんは、少年時代から無鉄砲で乱暴者。いたずらもよくしたので両親に疎んじられ、兄とも仲が悪かったが、清という下女だけは大変かわいがってくれた。清は坊っちゃんのことを心がきれいだ、まっすぐで良い性格だとほめて、将来はりっぱな人になると信じていた。母は早く死に、数年後に父も亡くなってしまった。商業学校を卒業した兄は、家売って財産を片付け、坊っちゃんに六百円だけ渡して九州に赴任(ふにん)する。坊っちゃんは六百円を学資にして勉強しようと思い、たまたま通りかかった物理学校の生徒募集広告を見て入学手続きをしてしまう。成績はよくなかったが、三年で卒業した。校長から四国のある中学校に数学教師の仕事があると聞き、すぐに引き受ける。

四国に行った「江戸っ子」の坊っちゃんは、何を見ても東京と比べてしまう。中学校に初出勤した日、校長先生から生徒の模範(もはん)になれと言われ、自分にはそんなことはできないと正直に答える。坊っちゃんは、教師達にあだ名をつける。校長は「狸(たぬき)」、教頭は「赤シャツ」、英語教師は「うらなり」、数学主任は「山嵐」、美術教師は「野だいこ」。授業の初日、田舎者の生徒に馬鹿にされないように「べらんめい調」で話したら、「もちっとゆるゆるやっておくれんかな、もし」と言われる。生徒達から幾何(きか)の難問を出され、「この次教えてやる」と言うと、「できん、できん」とからかわれる。住んでいる町が小さい所なので、何をしても誰かに見られている。天

婦羅(てんぷら)蕎麦(そば)を食べた翌日には、学校の黒板に「天婦羅蕎麦四杯なり」と落書きされ、団子屋に入った翌日には、黒板に「団子二皿七銭」と書いてあり、温泉の中で泳いだ翌日には「湯の中で泳ぐべからず」と張り紙がしてある。坊っちゃん生徒たちにこないたずらをされた日には、腹を立てて授業をやめてしまう。宿直の日に布団の中に数十匹のバツタが入っていたので寄宿生を問いつめるが、誰一人いたずらを認めないので「うそをついて罰をのがれようとするのは卑怯だ」と坊っちゃんは怒る。このような小さい事件が重なって、狭(せま)苦しい町が嫌になり、清のことを思い出して懐かしくなる。

中学校の教師達の間にも色々な確執(かくしつ)や企(たくら)みがある。坊っちゃんは、赤シャツ(教頭)と野だいこ(美術教師)から「数学主任の堀田が生徒を煽動して、坊っちゃんに嫌がらせをさせている」と吹き込まれる。単純な坊っちゃんはそれを信じて、一時は堀田と仲違いをするが、後にこれは真実ではないとわかり、以後親しくなる。正義感の強い坊っちゃんは、表と裏のある世間が理解できず度々失敗する。又、うらなり(英語教師)は「マドンナ」と呼ばれていた女性と婚約していたのに、赤シャツが彼女を横取りし、赤シャツはそのうらなりを追い出してしまったことを知る。

日露戦争(にちろせんそう)の祝勝(しゅくしょう)会(かい)の日に、山嵐と坊っちゃんは、師範(しはん)学校と中学校のけんかに巻き込まれて、新聞にこのけんかの首謀者(しゅぼうしゃ)だと書かれてしまい、山嵐はその責任を取って辞表を出させられる。しかし、これはすべて赤シャツの陰謀(いんぼう)だと気づいた坊っちゃんと山嵐は、赤シャツの悪事をあばこうとする。二人は赤シャツを何日も見張り、ついに赤シャツと野だいこの芸者遊びの帰りを取り押さえる。ところが二人がそれを認めないので、坊っちゃんと山嵐は二人を撲ってしまう。坊っちゃんはその日のうちに中学に辞表を書いて郵送し、次の日、清の待っている東京へ帰り、清と一緒に暮らし始める。

I. 親譲（おやゆず）りの無鉄砲（むてっぽう）で小供の時から損ばかりしている。小学校に居る時分学校の二階から飛び降りて一週間ほど腰（こし）を抜（ぬ）かした事がある。なぜそんな無闇（むやみ）をしたと聞く人があるかも知れぬ。別段深い理由でもない。新築の二階から首を出していたら、同級生の一人が冗談（じょうだん）に、いくら威張（いば）っても、そこから飛び降りる事は出来まい。弱虫や一い。と囃（はや）したからである。小使（こづかい）に負ぶさって帰って来た時、(1)おやじが大きな眼（め）をして二階ぐらいから飛び降りて腰を抜かす奴（やつ）があるかと云（い）ったから、(2)この次は抜かさずに飛んで見せますと答えた。

II. 親類のものから西洋製のナイフを貰（もら）って奇麗（きれい）な刃（は）を日に翳（かざ）して、友達（ともだち）に見せていたら、一人が光る事は光るが切れそうもないと云った。切れぬ事があるか、何でも切ってみせると受け合った。そんなら君の指を切ってみろと注文したから、(3)何だ指ぐらいこの通りだと右の手の親指の甲（こう）をはずに切り込（こ）んだ。幸（さいわい）ナイフが小さいのと、親指の骨が堅（かた）かったので、今だに親指は手に付いている。しかし創痕（きずあと）は死ぬまで消えぬ。

親譲り(おやゆずり)…inheritance from a parent
 無鉄砲（むてっぽう）…rash, reckless
 小共(こども)=子供
 損（そん）…loss; disadvantage
 時分（じぶん）…time; hour; season; time of the year
 腰（こし）…hip
 抜かす（ぬかす）…to leave; to omit; to sprain
 無闇（むやみ）…rashness; carelessness; imprudence
 別段（べつだん）…particularly (negative)
 新築（しんちく）…new building; new construction
 威張る（いばる）…to be proud; to swagger
 囃す（はやす）…to play accompaniment; to jeer at
 小使（こづかい）…(old) an errand boy; a servant; a messenger
 負ぶさる（おぶさる）…be carried on a person's back
 親類（しんるい）…relation; kin
 西洋製（せいようせい）…product of Western countries
 翳す（かざす）…hold up to the light
 受け合う（うけあう）…guarantee; assurance
 親指（おやゆび）…thumb
 甲（こう）…body cavity
 はずに…at an angle; on the bias; on the skew
 切り込む（きりこむ）…to cut into, to raid, to attack, to cut up
 創痕（きずあと）=傷跡…scar

第一段落についての質問

ここでは父親のどんな時のどんな表情をさしていますか。また、他のどんな時にこの表現を使いますか。

「坊ちゃん」はどうしてこのような答え方をしたのですか。

第二段落についての質問

この時の「坊ちゃん」の心理を説明しなさい。

III. 庭を東へ二十歩に行き尽（つく）すと、南上がり
 りにいささかばかりの菜園があつて、真中（まんな
 か）に栗（くり）の木が一本立っている。これは命よ
 り大事な栗だ。実の熟する時分は起き抜けに背戸（せ
 ど）を出て落ちた奴を拾ってきて、学校で食う。菜園
 の西側が山城屋（やましろや）という質屋の庭続き
 で、この質屋に勘太郎（かんとろう）という十三四の
 倅（せがれ）が居た。勘太郎は無論弱虫である。弱虫
 の癖（くせ）に四つ目垣を乗りこえて、栗を盗（ぬ
 す）みにくる。ある日の夕方折戸（おりど）の蔭（か
 げ）に隠（かく）れて、とうとう勘太郎を捕（つら）
 まえてやった。その時勘太郎は逃（に）げ路（みち）
 を失って、一生懸命（いっしょうけんめい）に飛びか
 かってきた。向（むこ）うは二つばかり年上である。
 弱虫だが力は強い。(4) 鉢（はち）の開いた頭を、
 こっちの胸へ宛（あ）ててぐいぐい押（お）した拍子
 （ひょうし）に、勘太郎の頭がすべって、おれの袷
 （あわせ）の袖（そで）の中にはいった。邪魔（じゃ
 ま）になって手が使えぬから、無暗（むやみ）に手を振（ふ）つ
 たら、袖の中にある勘太郎の頭が、右左へぐらぐら靡
 （なび）いた。しまいに苦しがつて袖の中から、おれ
 の二の腕（うで）へ食い付いた。痛かったから勘太郎
 を垣根へ押しつけておいて、足掬（あしがら）をかけ
 て向うへ倒（たお）してやった。山城屋の地面は菜園

いささか…somewhat; a little
 菜園（さいえん）…vegetable
 garden
 栗（くり）…chestnut
 熟する（じゅくする）…=熟す、
 ripe; mature
 起き抜け（おきぬけ）…as soon
 as wake up
 背戸（せど）…back door
 質屋（しちや）…pawnshop
 倅（せがれ）…son; my son
 四つ目垣（よつめがき）…a
 rough bamboo fence which has
 a pattern consisting of four
 squares
 折戸（おりど）…a folding door
 蔭（かげ）…shade; behind
 鉢（はち）…a bowl; a (flower)
 pot; skull, crown
 宛てる（あてる）…to address
 ぐいぐい…力を入れて勢いよく進
 む様子
 拍子（ひょうし）…time;
 rhythm,
 袷（あわせ）…a lined kimono
 袖（そで）…a sleeve; an arm, a
 wing
 無暗（むやみ）…rashness;
 carelessness; imprudence
 ぐらぐら…揺れる様子; 煮え立つ
 様子; 目まいなどで; 気持ちが定ま
 らない様子; 心が激しく騒ぐ様子
 靡く（なびく）…to bend; to
 stream; to yield
 しまいに…at last; finally; in the
 end
 垣根（かきね）…a fence; a hedge
 足掬（あしがら）… (=足掬み)
 skill of Kendo that trip up an
 opponent (forbidden now); a
 leg lock

第三段落についての質問

けんかの様子を頭に浮かべることができますか。

もしあなたが「坊ちゃん」と勘太郎のけんかの目撃者だったら、どのように状況を説明しますか。

より六尺がた低い。勘太郎は四つ目垣を半分崩（くず）して、自分の領分へ真逆様（まっさかさま）に落ちて、ぐうと云った。勘太郎が落ちるときに、おれの袴の片袖がもげて、急に手が自由になった。その晩母が山城屋に詫（わ）びに行ったついでに袴の片袖も取り返して来た。

IV. この外いたずらは大分やった。大工の兼公（かねこう）と肴屋（さかなや）の角（かく）をつれて、茂作（もさく）の人参畠（にんじんばたけ）をあらした事がある。人参の芽が出揃（でそろ）わぬ処（ところ）へ藁（わら）が一面に敷（し）いてあったから、その上で三人が半日相撲（すもう）をとりつづけに取ったら、人参がみんな踏（ふ）みつぶされてしまった。古川（ふるかわ）の持っている田圃（たんぼ）の井戸（いど）を埋（う）めて尻（しり）を持ち込まれた事もある。太い孟宗（もうそう）の節を抜いて、深く埋めた中から水が湧（わ）き出て、そこいらの稲（いね）にみずがかかる仕掛（しかけ）であった。その時分はどんな仕掛か知らぬから、石や棒（ぼう）ちぎれをぎゅうぎゅう井戸の中へ挿（さ）し込んで、水が出なくなったのを見届けて、うちへ帰って飯を食べていたら、古川が真赤（まっか）になって怒鳴（どな）り込んで来た。たしか罰金（ばっきん）を出して済んだようである。

領分（りょうぶん）…one's territory; one's domain; one's sphere
真逆様（まっさかさま）…headlong; head over heels
もげる…come off; be broken off
詫び（わび）…an apology
大工（だいこう）…carpentry; a carpenter
兼公（かねこう）…a nickname of a person
肴屋（さかなや）…=魚屋
茂作（もさく）…a nickname of a person
人参畠（にんじんばたけ）…carrot farm; carrot field
あらす…to damage; to vandalize; to wreck
出揃う（でそろ）…all present; all gathered; to be prepared
藁（わら）…straw
敷く（しく）…to spread; to lay out; to cover, sit on
相撲（すもう）…sumo wrestling
田圃（たんぼ）…a rice field; a rice paddy
持ち込む（もちこむ）…to bring, to carry, to lodge
孟宗（もうそう）…a kind of bamboo tree
稲（いね）…rice, a rice plant
ぎゅうぎゅう…物の鳴る音、押し付けたりする様子、責めて苦しませる様子
挿し込む（さしこむ）…to insert; to put
怒鳴る（どなる）…to shout; to yell
罰金（ばっきん）…a fine

第四段落についての質問

どんないたずらをしたか、簡単に箇条書きにしてみましょう。またこれらのいたずらは、誰に、どんな迷惑をかけたと思いますか。

V. おやじはちっともおれを可愛（かわい）がってくれなかった。母は兄ばかり鼯肩（ひいき）にしていた。この兄はやに色が白くって、芝居（しばい）の真似（まね）をして女形（おんながた）になるのが好きだった。おれを見る度にこいつはどうせ碌（ろく）なものにはならないと、おやじが云った。乱暴で乱暴で行く先が案じられると母が云った。なるほど碌なものにはならない。ご覧の通りの始末である。行く先が案じられたのも無理はない。ただ懲役（ちょうえき）に行かないで生きているばかりである。

VI. 母が病気で死ぬ二三日（にさんち）前台所で宙返りをしてへっつい角で肋骨（あばらぼね）を撲（う）って大いに痛かった。母が大層怒（おこ）って、お前のようなものの顔は見たくないと云うから、親類へ泊（とま）りに行っていた。するととうとう死んだと云う報知（しらせ）が来た。そう早く死ぬとは思わなかった。そんな大病なら、もう少し大人（おとな）しくすればよかったと思って帰って来た。そうしたら例の兄がおれを親不孝だ、おれのために、おっかさんが早く死んだんだと云った。(7) 口惜（くや）しかったから、兄の横っ面を張って大変叱（しか）られた。

鼯肩（ひいき）…favor; partiality
 やに=いやに…very much;
 unreasonably
 芝居（しばい）…a play; the theater; acting; fake; put-up job,
 案じる（あんじる）…to worry, be anxious, be concerned
 ご覧（ごらん）…to look; to see
 懲役（ちょうえき）…penal servitude; imprisonment with hard labor; draft
 宙返り（ちゅうがえり）をする…to do a somersault/tumble/loop
 肋骨（あばらぼね）…rib
 撲る（なぐる）…to strike; to hit
 大いに（おおいに）…very; much; greatly
 大層（たいそう）…very much; exaggerated
 親類（しんるい）…relative
 とうとう…finally; at last
 大病（たいびょう）…serious illness; dangerous disease
 親不孝（おやふこう）…lack of filial piety
 横っ面（よこつら）…side of face
 張る（はる）…to slap
 貴様（きさま）…you
 口癖（くちぐせ）…way of saying; favorite phrase
 実業家（じつぎょうか）…industrialist; businessman
 しきりに…frequently;
 repeatedly; incessantly; eagerly
 元来（がんらい）…originally; primarily; essentially; logically; naturally
 性分（しょうぶん）…nature; disposition

第五段落についての質問

「坊ちゃん」は、自分が両親からどのように思われていたと言っていますか。また、それに対してどう思っていますか。

第六段落についての質問

なぜ「口惜しかった」のですか。あなたが「坊ちゃん」だったら、この場合どうしますか。

VII. 母が死んでからは、おやじと兄と三人で暮（くら）していた。おやじは何にもせぬ男で、人の顔さえ見れば貴様は駄目（だめ）だ駄目だと口癖のように云っていた。何が駄目なんだか今に分らない。妙

（みょう）なおやじがあつたもんだ。兄は実業家になるとか云ってしきりに英語を勉強していた。元来女のような性分で、ずるいから、(8) 仲がよくなかった。十日に一遍（いっぺん）ぐらいの割で喧嘩（けんか）をしていた。ある時将棋（しょうぎ）をさしたら卑怯（ひきょう）な待駒（まちごま）をして、人が困ると嬉（うれ）しそうに冷やかした。あんまり腹が立ったから、手に在った飛車を眉間（みけん）へ擲（たた）きつけてやった。眉間が割れて少々血が出た。兄がおやじに言付（いつ）けた。(9)おやじがおれを勘当（かんどう）すると言い出した。

VIII. その時はもう仕方がないと観念して先方の云う通り勘当されるつもりでいたら、十年来召し使っている清（きよ）という下女が、泣きながらおやじに詫（あや）まって、ようやくおやじの怒（い）かりが解けた。(10)それにもかかわらずあまりおやじを怖（こわ）いとは思わなかった。かえってこの清と云う下女に気の毒であった。この下女はもと由緒（ゆいしよ）のあるものだったそうだが、瓦解（がかい）のときに零落（れいらく）して、つい奉公（ほうこう）まです

一遍（いっぺん）…once
割（わり）…rate; ratio; proportion; percentage
将棋（しょうぎ）…Japanese chess
卑怯（ひきょう）…cowardice; meanness; unfairness
待駒（まちごま）をする…to calculate your move to win in 将棋
冷やかす（ひやかす）…to make fun of
あまり～(In non-negative situations)…very much; excess; too much; more than; over
飛車（ひしゃ）…rook or castle (将棋piece)
眉間（みけん）…area between the eyebrows
割れる（われる）…to break; to crack; to be torn
言い付ける/言付ける（いいつける）…to tell on (someone)
勘当（かんどう）…to disown
観念（かんねん）する…to accept/resign; give up
先方（せんぼう）…other party (side); he; she; they
年来（ねんらい）…for some years
召し使う（めしつかう）…to employ
下女（げじょ）…maid servant
ようやく…gradually; finally; barely; hardly
かえって…on the contrary; rather; all the more; instead
気の毒（きのどく）…pitiful
由緒（ゆいしよ）…history; pedigree; lineage
瓦解（がかい）…fatal flaw

第七段落についての質問

「仲がよくなかった」理由はなんですか。二人の性格はどのように違いますか。性格が違う人といい関係を築くにはどうしたらいいと思いますか。

この時代の「勘当する・される」とは何を意味しますか。現在はどうですか。

るようになったのだと聞いている。だから婆（ばあ）さんである。この婆さんがどういう因縁（いんえん）か、おれを非常に可愛がってくれた。不思議なものである。母も死ぬ三日前に愛想（あいそ）をつかした——おやじも年中持て余している——町内では乱暴者の悪太郎と爪弾（つまはじ）きをする——このおれを無暗に珍重（ちんちょう）してくれた。おれは到底（とうてい）人に好かれる性（たち）でないとあきらめていたから、他人から木の端（はし）のように取り扱（あつか）われるのは何とも思わない、かえってこの清のようにちやほやしてくれるのを不審（ふしん）に考えた。清は時々台所で人の居ない時に「あなたは真（ま）っ直（すぐ）でよいご気性だ」と賞（ほ）める事が時々あった。しかしおれには清の云う意味が分からなかった。好（い）い気性なら清以外のものも、もう少し善くしてくれるだろうと思った。清がこんな事を云う度におれはお世辞は嫌（きら）いだと答えるのが常であった。すると婆さんはそれだから好いご気性ですと云っては、嬉しそうにおれの顔を眺（なが）めている。自分の力でおれを製造して誇（ほこ）ってるように見える。少々気味がわるかった。

IX. 母が死んでから清はいよいよおれを可愛がった。時々はお供心になぜあんなに可愛がるのかと不審に思った。つまらない、廃（よ）せばいいのにと思っ

零落（れいらく）…downfall; ruin
 奉公（ほうこう）…service;
 apprenticeship; public duty
 因縁（いんえん）…fate; destiny;
 connection; origin
 愛想（あいそ）…civility;
 courtesy; compliments;
 sociability; graces
 尽かす（つかす）…to give up on;
 to be disgusted with
 年中（ねんじゅう）…whole year;
 always; everyday
 持て余す（もてあます）…to be
 too much for one; to find
 unmanageable; to be beyond
 one's control; to not know what
 to do with
 町内（ちょうない）…
 neighborhood; street; block;
 town
 乱暴者（らんぼうもの）…thug;
 hooligan
 悪太郎（あくたろう）…bad boy
 爪弾き（つまはじき）をする…to
 ostracize (in other words to
 refuse to let somebody be a
 member of a social group)
 無闇（むやみ）…reckless;
 excessive
 珍重（ちんちょう）する…to
 prize; to value highly
 到底（とうてい）…(cannot)
 possibly
 木の端（きのはし）…fragment of
 wood
 ちやほやする…to pamper; to
 make a fuss of; to spoil
 不審（ふしん）…doubt; question;
 distrust; suspicion; strangeness

第八段落についての質問

なぜ怖いと思わなかったのですか。親を怖いと思うのはいいことですか、よくないことですか。

「坊ちゃん」は清にかわいがってもらったと言っていますが、どうしてそう思ったのですか。あなたは、どういう時に親（または祖父母、親戚など）にかわいがってもらっていると感じます（ました）か。

た。気の毒だと思った。それでも清は可愛がる。折々は自分の小遣（こづか）いで金鰐（きんつば）や紅梅焼（こうばいやき）を買ってくれる。寒い夜などはひそかに蕎麦粉（そばこ）を仕入れておいて、いつの間にか寝（ね）ている枕元（まくらもと）へ蕎麦湯を持って来てくれる。時には鍋焼饅頭（なべやきうどん）さえ買ってくれた。ただ食い物ばかりではない。靴足袋（くつたび）ももらった。鉛筆（えんぴつ）も貰った、帳面も貰った。これはずっと後の事であるが金を三円ばかり貸してくれた事さえある。何も貸せと云った訳ではない。向うで部屋へ持って来てお小遣いがなくてお困りでしょう、お使いなさいと云ってくれたんだ。おれは無論入らないと云ったが、是非使えと云うから、借りておいた。実は大変嬉しかった。その三円を蝦蟇口（がまぐち）へ入れて、懐（ふところ）へ入れたなり便所へ行ったら、すぽりと後架（こうか）の中へ落（おと）してしまった。仕方がないから、のそのそ出てきて実はこれこれだと清に話したところが、清は早速竹の棒を捜（さが）して来て、取って上げますと云った。しばらくすると井戸端（いどばた）でざあざあ音がするから、出てみたら竹の先へ蝦蟇口の紐（ひも）を引き懸（か）けたのを水で洗っていた。それから口をあけて壺円札（いちえんざつ）を改めたら茶色になって模様が消えかかっていた。清は

取り扱われる（とりあつかわれる）…to be treated; to be handled
気性（きしょう）…disposition; temperament
善く=良く
常（つね）…unchanging; always
（お）世辞（せじ）…flattery; compliment
製造（せいぞう）する…to produce/make/manufacture
気味が悪い（きみがわるい）…feel weird/creepy
不審（ふしん）…doubt; suspicion
仕方（しかた）がない…どうにもならない
早速（さつそく）…at once; right away; immediately

第九段落についての質問（段落全体を読んで）

「坊ちゃん」の清への気持ちは、ここではどのように表れていますか。また、清の「坊ちゃん」に対するこのような愛情の表現をどう思いますか。

火鉢で乾（かわ）かして、これでいいでしょうと出した。ちょっとかいてみて臭（くさ）いやと云ったら、それじゃお出しなさい、取り換（か）えて来て上げますからと、どこでどう胡魔化（ごまか）したか札の代りに銀貨を三円持って来た。この三円は何に使ったか忘れてしまった。今に返すよと云ったぎり、返さない。今となっては十倍にして返してやりたくても返せない。

X. 清が物をくれる時には必ずおやじも兄も居ない時に限る。おれは何が嫌いだと云って人に隠れて自分だけ得をするほど嫌いな事はない。兄とは無論仲がよくないけれども、兄に隠して清から菓子（かし）や色鉛筆を貰いたくはない。なぜ、おれ一人にくれて、兄さんには遣（や）らないのかと清に聞く事がある。すると清は澄（すま）したものでお兄様（あにいさま）はお父様（とうさま）が買ってお上げなさるから構いませんと云う。これは不公平である。おやじは頑固（がんこ）だけれども、そんな依怙彘負（えこひいき）はせぬ男だ。しかし清の眼から見るとそう見えるのだらう。全く愛に溺（おぼ）れていたに違（ちが）いない。元は身分のあるものでも教育のない婆さんだから仕方がない。単にこればかりではない。(12) 彘負目は恐ろしいものだ。清はおれをもって将来立身出世して立派なものになると思い込んでいた。その癖勉強

えこひいき…favoritism,
partiality
不公平（ふこうへい）…unfair;
partial
構う（かまう）…気にする, 問題
にするto care about; mind
頑固（がんこ）…stubborn;
obstinate
ごまかす=人を欺く, to cheat; to
deceive

第十段落についての質問

どうして「恐ろしい」のですか。文中から例をあげなさい。

をする兄は色ばかり白くって、とても役には立たないと一人できめてしまった。こんな婆さんに逢（あ）っては叶（かな）わない。自分の好きなものは必ずえらい人物になって、嫌いなひとはきつと落ち振れるものと信じている。

XI. おれはその時から別段何になると云う了見

（りょうけん）もなかった。しかし清がなるなると云うものだから、やっぱり何かに成れるんだろうと思っていた。今から考えると馬鹿馬鹿（ばかばか）しい。ある時などは清にどんなものになるだろうと聞いてみた事がある。ところが清にも別段の考えもなかったようだ。ただ(13)手車（てぐるま）へ乗って、立派な玄関（げんかん）のある家をこしらえるに相違（そう）い）ないと云った。それから清はおれがうちでも持つて独立したら、一所（いっしょ）になる気でいた。どうか置いて下さいと何遍も繰（く）り返して頼んだ。おれも何だかうちが持てるような気がして、うん置いてやると返事だけはしておいた。ところがこの女はなかなか想像の強い女で、あなたはどこがお好き、麴町（こうじまち）ですか麻布（あぎぶ）ですか、お庭へぶらんこをおこしらえ遊ばせ、西洋間は一つでたくさんですなどと勝手な計画を独りで並（なら）べていた。その時は家なんか欲しくも何ともなかった。西洋館も日本建（にほんだて）も全く不用であったから、

逢う（あう）…to meet
叶わない（かなわない）…to not come true
別段（べつだん）…particularly
了見（りょうけん）…idea, intention
馬鹿馬鹿しい（ばかばかしい）…stupid; foolish
手車（てぐるま）…handcart, rickshaw
立派（りっぱ）…excellent; magnificent, fine
玄関（げんかん）…entry way
相違（そうい）…difference
独立（どくりつ）…independence
一所（ひとところ）…one place, the same place
何遍（なんべん）…=何度
想像（そうぞう）…imagination
西洋（せいよう）…the west
麴町（こうじまち）…name of a town in Tokyo
麻布（あぎぶ）…name of a town in Tokyo
ぶらんこ…swing
日本建（にほんだて）…Japanese building

第十一段落についての質問

13. この表現から、どんなことがわかりますか。

そんなものは欲しくないと、いつでも清に答えた。すると、あなたは欲がすくなくって、心が奇麗だと云ってまた賞めた。清は何と云っても賞めてくれる。

XII. 母が死んでから五六年の間はこの状態で暮していた。おやじには叱られる。兄とは喧嘩をする。清には菓子を貰う、時々賞められる。別に望みもない。これでたくさんだと思っていた。ほかの小供も一概（いちがい）にこんなものだろうと思っていた。ただ清が何かにつけて、あなたはお可哀想（かわいそう）だ、不仕合（ふしあわせ）だと無暗に云うものだから、それじゃ可哀想で不仕合せなんだろうと思った。その外に苦になる事は少しもなかった。ただおやじが小遣いをくれないには閉口した。

XIII. 母が死んでから六年目の正月におやじも卒中で亡くなった。その年の四月におれはある私立の中学校を卒業する。六月に兄は商業学校を卒業した。兄は何か会社の九州の支店に口があって行（ゆ）かなければならん。おれは東京でまだ学問をしなければならぬ。兄は家を売って財産を片付けて任地へ出立（しゅったつ）すると云い出した。おれはどうでもするがよかろうと返事をした。どうせ兄の厄介（やっかい）になる気はない。世話をしてくれるにしたところで、喧嘩をするから、向うでも何とか云い出すに極（きま）っている。なまじい保護を受ければこそ、こ

奇麗（きれい）…beautiful
状態（じょうたい）…state;
condition
叱る（しかる）…to scold
喧嘩（けんか）…quarrel, fight
一概（いちがい）…
unconditionally
可哀想（かわいそう）…poor thing
不仕合わせ＝不幸福（ふしあわせ）…misfortune, unhappiness
小遣い（こづかい）…personal
money; allowance
閉口（へいこう）する…to be
annoyed
卒中（そっちゅう）…cerebral
stroke
商業（しょうぎょう）…commerce
支店（してん）…branch office
財産（ざいさん）…fortune;
property
片付く（かたづく）…to finish
任地（にんち）…one's place of
work
出立（しゅったつ）…just out of;
to depart
厄介（やっかい）…trouble,
burden
極まっている（きまっている）…
do something without fault/
exception
保護（ほご）…protection

第十二段落についての質問（段落全体を読んで）

母親が亡くなった後、「坊ちゃん」の生活で何が変わりましたか。

第十三段落についての質問

父親が亡くなった後、兄弟はそれぞれどうなりましたか。

んな兄に頭を下げなければならない。牛乳配達をして
も食ってられると覚悟（かくご）をした。兄はそれから
道具屋を呼んで来て、先祖代々の瓦落多（がらく
た）を二束三文（にそくさんもん）に売った。家屋敷
（いえやしき）はある人の周旋（しゅうせん）である
金満家に譲った。この方は大分金になったようだが、
詳（くわ）しい事は一向知らぬ。おれは一ヶ月以前か
ら、しばらく前途の方向のつくまで神田の小川町（お
がわまち）へ下宿していた。

XIV. 清は十何年居たうちが人手に渡（わた）るのを
大いに残念がったが、自分のものでないから、仕様が
なかった。あなたがもう少し年をとって奥（おく）さ
まをお貰いになるまでは、仕方がないから、甥（お
い）の厄介になりましょうとようやく決心した返事を
した。この甥は裁判所の書記でまず今日には差支（さ
しつか）えなく暮していたから、今までも清に来るな
ら来いと二三度勧めたのだが、清はたと下女奉公は
しても年来住み馴（な）れた家（うち）の方がいいと
云って応じなかった。しかし今の場合知らぬ屋敷へ奉
公易（ほうこうが）えをして入らぬ気兼（きがね）を
仕直すより、甥の厄介になる方がましだと思ったのだ
ろう。それにしても早くうちを持ての、妻（さい）を
貰えの、来て世話をすると云う。親身（しんみ）の
甥よりも他人のおれの方が好きなのだろう。

牛乳配達（ぎゆにゆうはいたつ）
…milk delivery man
覚悟（かくご）…resolution,
resignation
先祖代々（せんぞだいいだい）…
ancestor's generations
二束三文（にそくさんもん）…dirt
cheap
家屋敷（いえやしき）…house and
lot
周旋（しゅうせん）…
recommendation
金満家（きんまんか）…
millionaire, rich man
大分（だいぶん）…considerably
前途の方向（ぜんとのほうこう）
…future direction
詳しい（くわしい）…detailed;
accurate
小川町（おがわまち）…a name of
a town in Tokyo
下宿（げしゆく）…boarding
house; lodging
渡る（わたる）…to cross over
相続（そうぞく）…inheritance
口説く（くどく）…to urge; to
persuade
かよう…commute
無論（むろん）…of course
出掛ける（でかける）…to go out
毛頭（もうとう）…not at all
四畳半（よじょうはん）…4 and a
half tatami mats
籠る（こもる）…to retire into
oneself/one's room
甥（おい）…nephew
差し支える（さしつかえる）…to
interfere
奉公（ほうこう）…service
馴れる（なれる）…=慣れる, to
grow accustomed with

第十四段落についての質問

父親が亡くなった後、清はどうなりましたか。

XV. 九州へ立つ二日前兄が下宿へ来て金を六百円出してこれを資本にして商買（しょうばい）をするなり、学資にして勉強をするなり、どうしても随意（ずい）に使うがいい、その代りあとは構わないと云った。兄にしては感心なやり方だ、何の六百円ぐらい貰わんでも困りはせんと思ったが、(15) 例に似ぬ淡泊（たんぱく）な処置が気に入ったから、礼を云って貰っておいた。兄はそれから五十円出してこれをついでに清に渡してくれと云ったから、異議なく引き受けた。二日立って新橋の停車場（ていしゃば）で分れたぎり兄にはその後一遍も逢わない。

XVI. おれは六百円の使用法について寝ながら考えた。商買をしたって面倒（めんど）くさくって旨（うま）く出来るものじゃなし、ことに六百円の金で商買らしい商買がやれる訳でもなかろう。よしやれるとしても、今のように人の前へ出て教育を受けたと威張れないからつまり損になるばかりだ。資本などはどうでもいいから、これを学資にして勉強してやろう。六百円を三に割って一年に二百円ずつ使えば三年間は勉強が出来る。三年間一生懸命にやれば何か出来る。それからどこの学校へはいろいろと考えたが、学問は生来（しょうらい）どれもこれも好きでない。ことに語学とか文学とか云うものは真平（まっぴら）ご免（めん）だ。新体詩などと来ては二十行あるうちで一行も

奉公場（ほうこうば）…
apprentice location
気兼ね（きがね）… hesitant
妻（さい／つま）… wife
親身（しんみ）になる… to feel/act
like a parent/relative
商売（しょうばい）… trade,
business
随意（ずい）… optional,
voluntarily
淡泊（たんぱく）… simple, frank
処置（しょち）… disposition
異議（いぎ）… objection
停車場（ていしゃば）… train/bus
stop
一遍（いっぺん）… once; same
威張る（いばる）… to boast
損（そん）… loss; disadvantaged

第十五段落についての質問

何が「例に似ぬ」処置なのですか。

分らない。どうせ嫌いなものなら何をやっても同じ事だと思ったが、幸い物理学校の前を通り掛（かか）ったら生徒募集の広告が出ていたから、何も縁だと思って規則書をもらってすぐ入学の手続きをしてしまった。今考えるとこれも(16)親譲りの無鉄砲から起（おこ）った失策だ。

XVII. 三年間まあ人並（ひとなみ）に勉強はしたが別段たちのいい方でもないから、席順はいつでも下から勘定（かんじょう）する方が便利であった。しかし不思議なもので、三年立ったらとうとう卒業してしまった。自分でも可笑（おか）しいと思ったが苦情を云う訳もないから大人しく卒業しておいた。

XVIII. 卒業してから八日目に校長が呼びに来たから、何か用だろうと思って、出掛けて行ったら、四国辺のある中学校で数学の教師が入る。月給は四十円だが、行ってはどうだという相談である。おれは三年間学問はしたが実を云うと教師になる気も、田舎（いなか）へ行く考えも何もなかった。もつとも教師以外に何をしようとするあてもなかったから、この相談を受けた時、行きましようとして即席（そくせき）に返事をした。これも(17)親譲りの無鉄砲が祟（たた）ったのである。引き受けた以上は赴任（ふにん）せねばならぬ。この三年間は四畳半に蟄居（ちつきよ）して小言はただの一度も聞いた事がない。喧嘩もせずに済ん

物理（ぶつり）... physics
通り掛る（とおりがかる）...to pass by
募集（ぼしゅう）...recruitment
広告（こうこく）... flier
規則（きそく）...rules; regulation
親譲り（おやゆずり）... inherited from parents
失策（しっさく）...error; mistake; blunder
別段（べつだん）...particularly; in particular
勘定（かんじょう）..calculation; count
苦情（くじょう）...complaint; grievance
校長（こうちょう）...principle

第十六段落についての質問

第十七段落についての質問

「親譲りの無鉄砲」という表現が繰り返し出てきますが、それぞれ具体的にどんな行動をさしますか。またどのようにとらえられていますか。

だ。おれの生涯のうちでは比較的呑気（ひかくてきのんぎ）な時節であった。しかしこうなると四畳半も引き払わなければならぬ。生れてから東京以外に踏み出したのは、同級生と一所に鎌倉（かまくら）へ遠足した時ばかりである。今度は鎌倉どころではない。大変な遠くへ行かねばならぬ。地図で見ると海浜で針の先ほど小さく見える。どうせ碌な所ではあるまい。どんな町で、どんな人が住んでるか分らん。分らんでも困らない。心配にはならぬ。ただ行くばかりである。もっとも少々面倒臭い。

IXX. 家を畳（たた）んでからも清の所へは折々行った。清の甥というのは存外結構な人である。おれが行（ゆ）くたびに、居（お）りさえすれば、何くれと款待（もて）なしてくれた。清はおれを前へ置いて、いろいろおれの自慢（じまん）を甥に聞かせた。今に学校を卒業すると麴町辺へ屋敷を買って役所へ通うのだなどと吹聴（ふいちょう）した事もある。独りで極（き）めて一人（ひとり）で喋舌（しゃべ）るから、こっちは困（こ）まって顔を赤くした。それも一度や二度ではない。折々おれが小さい時寝小便をした事まで持ち出すには閉口した。甥は何と云って清の自慢を聞いていたか分らぬ。ただ清は昔風（むかしふう）の女だから、自分とおれの関係を(18) 封建（ほうけん）時代の主従（しゅじゅう）のように考えていた。自分

四畳半（よじょうはん）...four and a half tatami size
 蟄居（ちつきよ）...to be placed in confinement
 生涯（しょうがい）...in a lifetime; in one's career
 比較的（ひかくてき）...comparatively; relatively
 呑気（のんぎ）...optimistic; easy
 時節（じせつ）...time
 遠足（えんそく）...excursion
 海辺（うみべ）... beach; seashore
 碌（ろく）... no good; not decent
 もてなす ...to treat; entertain; be hospitable to
 屋敷（やしき）...mansion; residence
 役所（やくしょ）...public office/hall
 吹聴（ふいちょう）する...to broadcast; to mouth
 寝小便（ねしょうべん）...to wet your bed
 閉口（へいこう）する...to be annoyed

第十八段落についての質問

（段落全体を読んで） 「坊ちゃん」が教師になった理由は何ですか。

第十九段落についての質問

「封建時代の主従関係」とはどんな関係ですか。

の主人なら甥のためにも主人に相違ないと合点（がてん）したものらしい。甥こそいい面（つら）の皮だ。
XX. いよいよ約束が極まって、もう立つと云う三日前に清を尋（たず）ねたら、北向きの三畳に風邪（かぜ）を引いて寝ていた。おれの来たのを見て起き直るが早いのか、坊（ぼ）っちゃんいつ家（うち）をお持ちなさいますと聞いた。卒業さえすれば金が自然とポケットの中に湧いて来ると思っている。そんなにえらい人をつかまえて、まだ坊っちゃんと呼ぶのはいよいよ馬鹿気ている。(19)おれは単簡に当分うちは持たない。田舎へ行くんだと云ったら、非常に失望した容子（ようす）で、胡麻塩（ごましお）の鬢（びん）の乱れをしきりに撫（な）でた。あまり気の毒だから「行く（ゆ）く事は行くがじき帰る。来年の夏休みにはきつと帰る」と慰（なぐさ）めてやった。それでも妙な顔をしているから「何を見やげに買って来てやろう、何が欲しい」と聞いてみたら「越後（えちご）の笹飴（ささあめ）が食べたい」と云った。越後の笹飴なんて聞いた事もない。第一方角が違う。「おれの行く田舎には笹飴はなさそうだ」と云って聞かしたら「そんなら、どっちの見当です」と聞き返した。「西の方だよ」と云うと「箱根（はこね）のさきですか手前ですか」と問う。随分持てあました。

封建（ほうけん）… feudal times/system
 主従（しゅじゅう）… the principal and accessory/homage
 合点（がてん）… understand; comprehend
 極まる（きまる）… 決まる
 馬鹿気ている（ばかげている）… stupid
 失望（しつぼう）… disappointment
 乱れ（みだれ）… confusion; disorder
 越後（えちご）… 新潟（にいがた）県（けん）のあたり
 笹飴（ささあめ）… 越後の名物のあめ
 随分（ずいぶん）… very; very much
 承知（しょうち）… know it full well

第二十段落についての質問

清はなぜここで失望したようすを見せたのですか。

XXI. 出立の日には朝から来て、いろいろ世話をやいた。来る途中（とちゅう）小間物屋で買って来た齒磨（はみがき）と楊子（ようじ）と手拭（てぬぐい）をズックの革鞆（かぼん）に入れてくれた。そんな物が入らないと云ってもなかなか承知しない。車を並べて停車場へ着いて、プラットフォームの上へ出た時、車へ乗り込んだおれの顔をじっと見て「もうお別れになるかも知れません。随分ご機嫌（きげん）よう」と小さな声で云った。目に涙（なみだ）が一杯（いっぱい）たまっている。おれは泣かなかった。しかしもう少しで泣くところであった。汽車がよっぽど動き出してから、もう大丈夫（だいしょうぶ）だろうと思って、窓から首を出して、振り向いたら、やっぱり立っていた。(20)何だか大変小さく見えた。

極まる（きまる）... 決まる
馬鹿気ている（ばかげている）...
stupid
失望（しつぼう）...
disappointment
乱れ（みだれ）... confusion;
disorder
越後（えちご）... 新潟（にいがた）
のあたり
笹船（ささあめ）... 越後の名物の
あめ
随分（ずいぶん）... very; very
much
承知（しょうち）... know it full
well

第二十一段落についての質問（段落全体を読んで）

別れに際して、清と「坊ちゃん」の気持ちがよく表れている部分はどこですか。
なぜ「小さく見えた」のですか。ここでの坊ちゃんの気持ちを考えでみましょう。

読んだ後で（内容全体の把握）

1. 次の引用文は、だれのことばで、どんな場面に出てきましたか。
そして、その人のどんな面を表わしていますか。

(1) いくらいばっても、そこから飛び降りることはできまい。弱虫や一い。

(2) 二階ぐらいから飛び降りて、腰をぬかすやつがあるか。

(3) この次は抜かさずに飛んでみせます。

(4) そんなら君の指を切ってみろ。

(5) こいつは、どうせろくなものにはならない。

(6) お前のようなものの顔は見たくない。

(7) あなたはまっすぐでよい御気性だ。

(8) あなたはどこがお好き、麴町ですか麻布ですか、お庭へぶらんこをおこし
えあそばせ。。。

(9) これを資本にして商売をするなり、学資にして勉強をするなり、どうしても随
意（ずい）に使うがいい。

(10) 坊ちゃん、いつ家をお持ちなさいます。

(11) 何をみやげに買ってきてやろう。何がほしい。

(12) もうお別れになるかもしれません。

2. 「親譲りの無鉄砲で」損をしたり失敗したりしたと坊っちゃんと言っていますが、
損をしたり失敗したりしたその具体例を3つあげなさい。

3. 坊っちゃんの家族との関係は、どんな関係ですか。例をあげて答えなさい。
4. 坊っちゃんと清との関係は、どんな関係ですか。例をあげて答えなさい。
5. 清の言葉遣いから彼女のどんなことが分かりますか。
どうして彼女は下女になったのでしょうか。
6. 清にとって、坊っちゃんの出世とは、どんなことを意味していましたか。
これは、現代社会の「出世」の考え方との同じでしょうか。
7. 「坊っちゃん」の中には、差別的な発言や場面がいくつかあります。それを書き出しなさい。

ディスカッション／ペーパー トピック

1. 坊っちゃんにとって、家族とはどんなものだったのでしょうか。
そして、清との関係は、坊っちゃんの性格形成にどんな影響を与えたのでしょうか。
2. あなたがもし教師としてこの小説を「倫理小説」として小学生や中学生に読ませるなら、何を教えますか。小説の中から具体的に例も挙げながら解説しなさい。

視点を変えてみよう。

1. もし坊っちゃんが今の時代の人だったら、話はどのように変わるとおもいますか。
この話を現代版に書き換えてみましょう。
2. この話は、坊っちゃんの視点から書かれています。他の人の視点（第三者の語り手でも 良い）から書き換えてみましょう。